

## 平成 29 年度 第二回 学校協議会 議事録

日時：平成 29 年 12 月 8 日（金）

午後 7 時～8 時 30 分

会場：同窓会館 1 F

出席者

（協議会委員） 井関義彦様 北村貴則様  
古川広宣様 田中栄美子様 楠本治様  
（事務局） 准校長 教頭 主査 記録係 中

### 1. 開会挨拶、准校長挨拶

- 夏休み：定時制通信制全国大会に大阪府代表としてテニス部、陸上部が出場。
- 9 月：就職試験解禁。
- 10 月：定時制通信制秋季生活発表大会へ本校生徒が出場。
- 11 月：藤工フェスティバル開催
- 12 月：クリーンキャンペーン

### 2. 協議

（1）本校の現状について

- 本校の取り組みの中間報告
  - ・ DVD 上映（内容：クラス担任が生徒の日中働いている様子を収めた物）
  - ・ 2017 年度 進路状況紹介 12 月 1 日現在の状況

男子就職希望者 20 名	内定者 10 名
女子就職希望者 3 名	内定者 1 名
男子大学進学希望者 1 名	合格者 1 名
女子大学進学希望者 0 名	
男子専門学校進学希望者 4 名	合格者 1 名
女子専門学校希望者 2 名	合格者 2 名
- 資格取得状況
  - 漢字検定状況報告 ※開催日 2 月 9 日（金）の会場は本校。
  - その他資格状況報告

#### 質疑応答

田中様：卒業予定者はどのくらいの人数であるか？

回答→現段階では決定はしていないが、在籍者の7～8割程です。

楠本様：検定には受験料が発生するが負担はどうなっているのか？

回答→生徒個人負担となっている。

→フォークリフト運転免許等、外部委託や、全員希望ではないため生徒個人負担となっている。

田中様：検定合格人数は27名となっているが重複受験者はいるのか？

回答→重複受験し、合格しているため述べ人数である。

- 授業アンケート（1回目）の結果について

全体として非常に良好。

「学校が楽しい」などの質問に対して前向きな回答を多数得ることが出来た。

授業アンケートの目的として生徒へ授業に関するアンケートをとり、結果を教員へフィードバックし、授業水準の向上を行う。

中学校でも授業アンケートは行っている。

#### 質疑応答

ナシ

- いじめに関するアンケート結果について

常時出席生徒150名前後→110名前後の回答を得ることができた。7割の回答。

アンケート回答に反応があった生徒（2名）に関しては生徒への聞き取り調査を行い、カウンセラーと連携し、生徒のケアを行った。

該当生徒に関しては、担任、生活指導部の連携による指導および全教員の情報共有および配慮による対処を行った。

いじめ対策委員会を定期開催しており、上記のアンケートを取るなど学校全体でいじめ早期発見の対策をしており、具体的な効果が挙げられていると思われる。

- 学校教育自己診断の結果について

学校教育アンケート結果報告

(生徒向け)「学校に行くのが楽しい。

「授業がわかりやすい。」

「社会人になった時に必要な事について学ぶ機会が多い。」

「なやみや相談を気軽に出来る先生。」

「先生はいじめなどに真剣に対応してくれている。」

上記の質問において良好な結果を得ることが出来た。

質疑応答 ナシ

(教員向け) 生活指導、進路指導、教員関係、教育全般、学校運営に関するアンケート結果が全体的に良好であった。

「生徒の問題行動が起きた時に組織的に対応している。」

「本校の教育活動において教員間にて意見交換する時間がある。」

「人権尊重に関する課題などについて積極的に話し合う機会が多い。」

「准校長は学校方針や教育について教員へ積極的に話しをしている。」

「本校教員は全体的に仲が良く、協力体制が密に出来上がっている。」

上記のアンケート質問に対しては、特に良好な結果を得ることが出来た。

また、SSWによる研修を行い教員への積極的なフィードバックや、門当番により関係者以外の侵入を未然に防止し、授業巡回を行うことで生徒に授業参加を促す効果が上がっている。

質疑応答 ナシ

(保護者向け) 保護者185名うち119名の保護者より回答 提出率64.3%

「いじめや子供が困っている事があった時に学校は真剣に対応している。」

上記の質問に関して、昨年度より大幅に良好な回答を得ることが出来た。

質疑応答 ナシ

- 大阪府定時制高校合同相談会について  
毎年2月桃谷高校の食堂にて開催

## 協議会の感想

楠本様：

中学校現場として学校が楽しいか楽しくないかというのはとても大切な要素。  
居場所がある、仲間がいる。楽しいという環境の中で様々な可能性を見つける事が出来る。

心配事として高校機能統合により学校数が減ってしまう。特に南河内地区。  
藤井寺工科はその波に吞まれないか、各方面から心配の声が挙がっている。  
特に藤井寺工科高校定時制は、南河内地区唯一の定時制である。

このままでは南河内地区の「働きながら学ぶ」事の出来る場が、無くなってしま  
う。

最後の砦として現存し続けてほしい。

井関様：

上映 DVD は働いていない生徒に対するよい刺激となる。「働きながら学ぶ」の方  
針の体現である。とてもよかった。

田中様：

生徒の2極化の激しい本校において、不登校など学校生活に消極的だった生徒が  
快適に過ごせる環境ではあるが、社会環境への適応や自立が可能であるか心配で  
ある。

北村様：

本校卒業生が勤続25年を超えました。初めは先輩から厳しい指導をされていた  
が、地道に経験を積み重ね達成した。

しかし、時代が進み、厳しい指導が無くなり、現代の高校生は社会に出た際、指  
導に対する耐性が無いように思える。

最近、外国人研修生を雇用しているがとても熱心である。自ら進んで仕事に励ん  
でおり向上心が高く、ベトナム本国においても人々の活気が溢れている。

まるで、戦後の日本のような活気である。

このままでは日本の若者は時代の波に吞まれてしまう。

学校が楽しいのは良い事だが「楽だから楽しい」だけでなく、生徒が社会に出た  
際、困難や課題を解決する楽しさを発見させる事に、学校教育の真価が問われる。

古川様：

学校教育の進化を見させていただいた。「学校に来やすい」それは温かく過ごしやすい環境であるため。社会に出ると冷たい厳しい環境も多々あるが、温室で育ったとしても目的、目標を明確に持てば厳しい環境でも自立することが出来る。教員は生徒に目的や目標を持たせるようなアドバイスをたくさんしてほしい。そういう「目標に向かう」楽しさを教えてほしい。

森村准校長：

外国人雇用は生産労働人口減少の日本社会にとっては良い事であるが、日本人にとっては雇用の減る危機的的一面もある。また今後は人間の仕事が AI に取って代わられ雇用が減る懸念がある。しかし、少子化で社会に輩出される高校生は今後ますます減少すると思われる。その中で、高校を卒業して自立したいという生徒の意思を尊重し、過ごしやすい環境を整え卒業までの時間を全力でサポートするのが本校の役目だと思う。

南河内地区において、平成31年度から2校が新入生募集停止となるが、その機能は別の高校へ移される。募集停止要因としては中学校卒業生が年々減少しているため。

今後は、AI やグローバル化により職が失われる事を、教員が生徒へ伝達しなければならない。

松山教頭：

次回学校協議会のスケジュール調整。

(開催日は後日決定連絡)

- 閉会の挨拶